

## 新型コロナ禍における法務対応について解説



11 月度議員懇談会ならびに臨時議員総会を11月2日午前11時から福井商工会議所ビルで開催し、71名が出席した。

開会にあたり伊東会頭は、「福井商工会議所が実施したアンケート調査によれば、新型コロナウイルスの影響はかなり広い範囲に出ている結果となった。ここに至り製造業が少しずつ上向いてきているが、まだまだ予断を許さず、気を引き締めていかなければならない」と調査結果を説明。

その上で、「先般、県内経済5団体で共同アピールを行った。福井県内においてもGo To Eat キャンペーンがスタートしており、今回の施策を

どう取り込んでいくかが我々商工会議所に課せられた使命だと思っている」と今後を展望した。

続いて「経営者のためのコロナ禍に伴う法務対応のポイント」をテーマに、九頭竜法律事務所の八木宏弁護士より卓話があった。

まず八木氏は、新型コロナウイルスが企業活動に影響を及ぼす要因について説明。特に今回の新型コロナウイルスについては「終わりのない不安感」が大きく、これが経済活動の遅滞を引き起こしていると解説。

さらに、「判例があまり出ていない状況ではあるが、新型コロナウイルスの影響で取引が遅延した場合の損害賠償請求については、債務不履行に陥った要因に債務者の責に帰すべき事由がなかった（交通インフラがストップしたなど）場合、損害賠償請求は受けないと思われる」と述べた。また、契約解除（キャンセル）については、今年4月の民法改正により「債務者の責に帰すべき事由」は不要となり、キャンセル料についても消費者を保護する観点から直前までキャンセル料を徴求しないのが一般的だが、コロナ禍でのケースではキャンセルにより事業者が大きな損害を被ったケースも多くみら



新型コロナ禍における企業の法務対応について説明する八木弁護士

れ、適正なキャンセル料は徴求すべきと力説した。

次に、11月1日からスタートした「北陸技術交流テクノフェア on the web」の開催概要について、技術交流テクノフェア実行委員会の村田良昭実行委員長より説明が行われ、オンライン事業への積極的な参加が呼びかけられた。

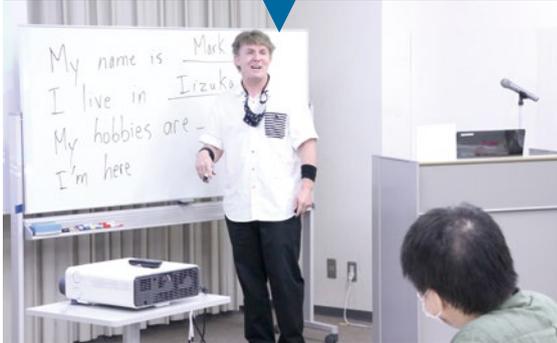
最後に、来年3月に鯖江市をメイン会場に開催される「日本商工会議所青年部第40回全国大会」について、福井商工会議所青年部の中川知士会長が説明。全国から多くの来場が見込まれる本イベントの開催にあたり協力依頼を行った。

# 事業開催結果

10.12~

## ビジネス英会話講座 入門編

担当/地域事業・観光振興課



ビジネスシーンで役立つ英会話スキル向上を目的に開催。初回は自己紹介から始まり、よく使われる表現を音読やペアワークで学んだ。授業は英語で進行するため、戸惑う受講生も見受けられたが、ワークを繰り返していくうちに打ち解け、積極的に質問する様子も見られた。

参加者/14名

講師/マーク・ターナー氏

(全10回シリーズ開催予定)

10.1

## 災害時における施設使用 協力に関する協定締結式



大規模災害発生時の地域避難活動に貢献するため、福井商工会議所と豊地区自主防災会連絡協議会との間で協定を締結。締結式では伊東会頭と金子会長が協定書に署名を行い、避難指示が発令された際、近隣住民の一時的な退避場所として当所ビルを開放する取り決めを行った。

会場/福井商工会議所ビル 役員会議室

10.13-20

## 新入社員 フォローアップ研修

担当/人材確保支援センター



入社後の半年間を振り返りながら社会人としての心構えやビジネスマナー、報連相のポイント、仕事の進め方などを学ぶセミナーを開催。受講者はワークやグループディスカッションを通して、他社の新入社員の考え方をすることで必要なスキルや心構えに関する理解を深めていた。

受講者/61名 会場/福井商工会議所ビル 国際ホール

講師/北出経営労務事務所 シナジー経営㈱

代表取締役 北出慎吾氏

10.2

## 手を動かして学ぶ IoT 教室

担当/デジタル活用ビジネス支援センター(まちづくり・産業振興課)



生産性向上に向けたIoT導入の方法を学ぶため、ものづくり、通信機器販売企業等に勤める14名が受講。非技術者の受講者もあり、複雑な英数字入力を必要としないプログラミング、取得したデータのグラフ化など、実現場で即座に活用できる技術の習得に取り組んだ。

受講者/14名

会場/福井商工会議所ビル 地下 国際ホール

講師/㈱ケー・ティー・システム 小原亮一氏 ほか3名